

射水市教育委員会 9月定例会次第

日 時 令和元年10月3日(木)

施設視察終了後

場 所 生涯学習センター2階会議室

1 会議録の承認

2 事務局報告

(1) 令和元年度9月市議会開催状況について 資料1

3 議案

(1) 射水市中央公民館条例施行規則の廃止について 資料2

4 各課等の連絡事項及び報告事項

(1) 令和元年度 全国学力・学習状況調査における射水市の結果について

【教育センター】 資料3

(2) 市教育センター主管の教職員研修について 【教育センター】 資料4

(3) 令和元年度カニ学校給食の実施について 【学校教育課】 資料5

(4) 教育委員会行事予定 資料6

5 その他

※ 次回教育委員会の開催日時について

10月24日(木) 午前10時00分から 会議室305

令和元年 9 月市議会開催状況について（教育委員会関係）

1 教育委員会関係議案

- 議案第 60 号 令和元年度射水市一般会計補正予算（第 3 号）
（小杉南中学校屋内運動場トイレ改修工事等）
- 議案第 79 号 射水市中央公民館条例の廃止について
- 議案第 81 号 射水市立小杉南中学校大規模改造第Ⅲ期（建築主体）工事請負契約の一部変更について

2 代表質問、一般質問（教育委員会関係）（※発言順）

- (1) 代表質問 9月17日（火）
- 高橋久和 議員（自民新政会）
 - 1 （仮称）フットボールセンター整備事業の進行状況について

 - 石黒善隆 議員（自民議員会）
 - 1 子どもの安全安心について
 - (1) 登下校時の見守り等の防犯対策について
- (2) 一般質問 9月18日（水）
- 瀧田孝吉 議員
 - 1 射水市スポーツ振興施策について
 - (1) スポーツ推進コーディネーターの実績と反響について
 - (2) 今年度から増員した部活動指導員の効果について
 - (3) 強化種目設定や特定競技の強化について
 - (4) 小学校の夏季休業期間におけるプールの利用状況及び運営方法について
 - (5) 小杉南中学校、大門中学校のプール施設の今後について
 - (6) 「射水市スポーツ大会出場激励金」について
 - (7) 射水市スポーツ交流ゾーン形成について

 - 根木武良 議員
 - 1 就学援助の「入学準備金」について
 - (1) 就学援助の「入学援助金」について
 - 2 不登校の実態について
 - (1) 不登校の実態(小・中学校別)について

○ 奈田安弘 議員

- 1 子どもたちの夢や目標について
 - (1) 学習状況調査の結果について
 - (2) 夢や目標を育むための取り組みについて

3 総務文教常任委員会 9月20日(金)

議案第79号 射水市中央公民館条例の廃止について

議案第81号 射水市立小杉南中学校大規模改造第Ⅲ期(建築主体)工事請負契約の一部変更について

報告事項 生涯学習センターの機能移転と廃止について

4 予算特別委員会 9月26日(木)・27日(金) (※発言順)

○ 瀧田委員

- 1 小中学校エアコン整備について

議案第 12 号

射水市中央公民館条例施行規則の廃止について

射水市中央公民館条例施行規則を廃止する規則を次のように定める。

令和元年 10 月 3 日 提 出

射水市教育委員会
教育長 長 井 忍

射水市教育委員会規則第 8 号

射水市中央公民館条例施行規則を廃止する規則

射水市中央公民館条例施行規則（平成 29 年 3 月 30 日教育委員会規則第 2 号）は、廃止する。

附 則

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

議案第12号

射水市中央公民館条例施行規則の廃止について

(説明)

施設機能の転用に伴い、射水市中央公民館を廃止するため、施行規則を廃止するもの。

施行期日

令和2年4月1日

「平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査」

における射水市の結果について

令和元年 月 日（ ）

射水市教育委員会

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査について

I 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

II 実施概況（射水市小中学校）

- 実施期日 平成31年4月18日（木）
- 調査内容
 - ・学力調査（教科に関する調査）
 - （小学校）国語、算数
 - （中学校）国語、数学、英語
 - ※ 平成31年度調査より、すべての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のA B区分がなくなった。
 - ・学習調査（質問紙調査）
 - 児童生徒、学校

○ 実施学校数、実施児童生徒数

射水市 小中学校	小学校6年		中学校3年	
	実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
	15校	850名	6校	781名

※ 用語説明

平均正答率	<p>平均正答数を百分率で表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語、算数、数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
-------	---

Ⅲ 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

射水市教育委員会では「射水市学力向上委員会」を設置し、学力調査及び質問紙調査の結果を分析・考察して、学力向上対策に反映させている。

特に、日々の授業で児童生徒が「分かる・できる」を実感できるよう、射水トライアル3点セット（射水スタンダード～授業のABC～、授業研究協議ステージアップ、授業力向上のちょいテク）を活用した教員の授業力向上に努めている。質問紙調査からは、自尊心の高まりや主体的な学習態度等で好ましい学習状況がうかがえた。学力調査では、各教科で記述形式で解答する問題で課題がみられた。

確かな学力の定着に向け、射水トライアル3点セットを活用した継続的な授業改善を図るとともに、補充学習の充実や学び合う集団づくりの推進を一層支援していきたい。

1 学力調査の結果（教科区分別平均正答率）

- 小学校 国語では、全国平均を上回り、県平均を下回った。
算数では、全国平均を上回り、県平均と同等であった。
- 中学校 国語では、全国平均を上回り、県平均を下回った。
数学では、全国平均、県平均を共に上回った。
英語では、全国平均、県平均を共に下回った。

（単位：％）

区 分	小 学 校 6 年		中 学 校 3 年		
	国 語	算 数	国 語	数 学	英 語
射水市	67%	69%	75%	67%	55%
県との差	-1	0	-1	2	-2
国との差	3	2	2	7	-1
富山県	68%	69%	76%	65%	57%
全 国	64%	67%	73%	60%	56%

※ 平均正答率について、文部科学省は平成28年度より、小数点以下第1位を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、整数値で公表した。

【参考】（平成30年度：学力調査）

（単位：％）

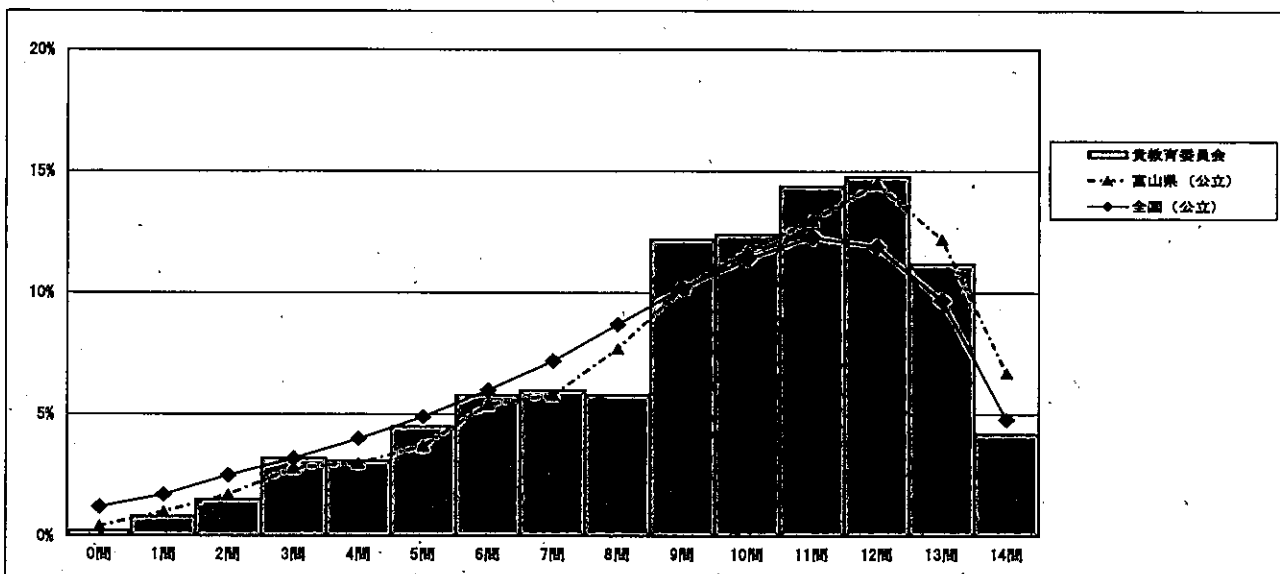
区 分	平成30年度 小学校 6 年					平成30年度 中学校 3 年				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学B	理科
射水市	73%	57%	64%	53%	62%	78%	63%	73%	53%	71%
県との差	-1	-1	-2	-2	-2	0	0	3	2	1
国との差	2	2	0	1	2	2	2	7	6	5
富山県	74%	58%	66%	55%	64%	78%	63%	70%	51%	70%
全 国	71%	55%	64%	52%	60%	76%	61%	66%	47%	66%

2 教科に関する結果の概要及び考察

小学校 国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	850	9.4 / 14	67	10.0	3.1
富山県(公立)	8,335	9.3 / 14	66	10.0	3.2

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上 ○全国以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体			○ 67	68	69.9
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	○ 74.8	76.7	72.8
	書くこと	3	◎ 62.0	60.3	54.6
	読むこと	3	◎ 85.3	85.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	○ 55.7	58.3	62.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	○ 62.8	62.9	57.6
	話す・聞く能力	3	○ 74.8	76.7	72.8
	書く能力	3	◎ 62.0	60.3	54.6
	読む能力	3	◎ 85.3	85.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	○ 55.7	58.3	62.5
問題形式	選択式	7	○ 78.4	79.0	75.1
	短答式	4	○ 51.8	54.2	51.7
	記述式	3	○ 62.8	62.9	57.6

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

結果の数値表記について

- ・全体平均正答率の全国・県平均との比較は、整数表記
- ・領域、観点、問題形式の平均正答率の全国・県平均との比較は、小数表記

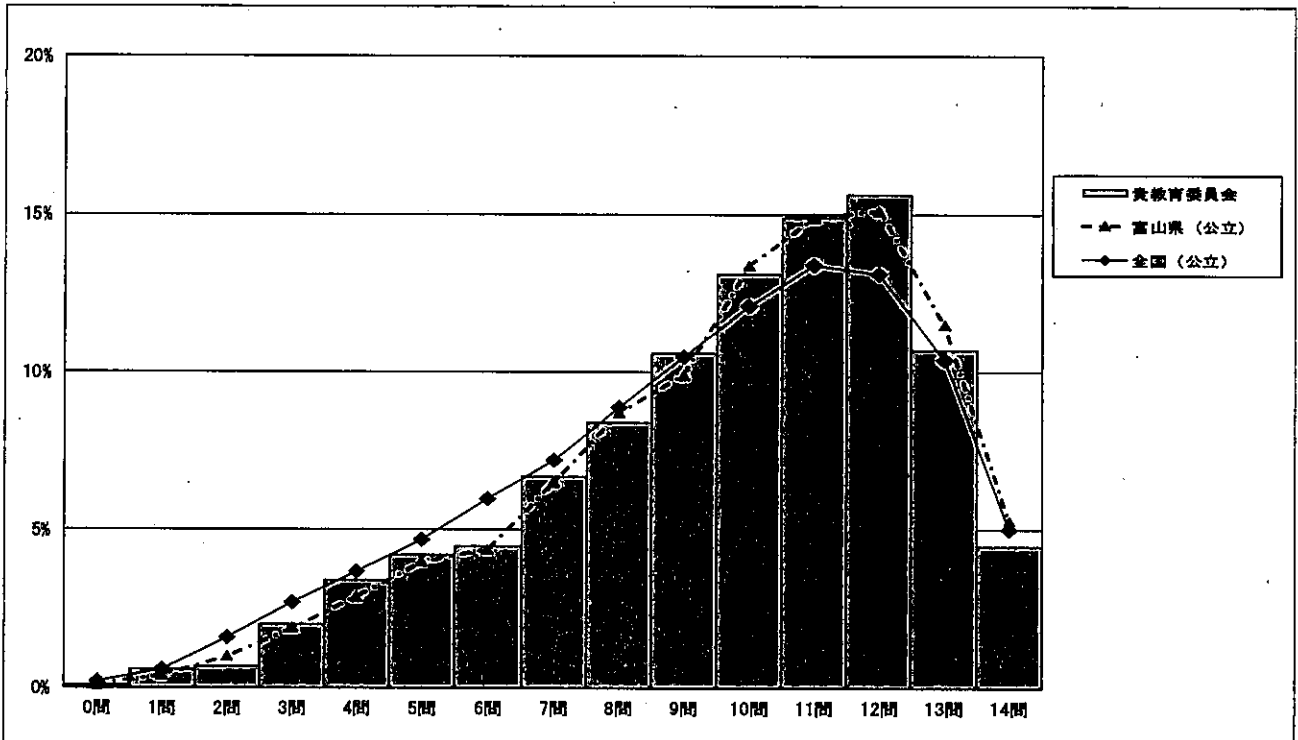
小学校国語

<p>結果の概要</p>	<p>○全体の平均正答率は全国平均を3.2ポイント上回っているが、県平均を1ポイント下回っている。「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」の分類においては、いずれにおいても、全国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●県平均と比較すると「学習指導要領の領域等」における「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率が、約1～2ポイント下回っている。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>○「書くこと」「読むこと」の領域においては、昨年度は全国平均、県平均共に下回っていたが、今年度は「書くこと」については全国平均を7.5ポイント、県平均を1.7ポイント上回っており、「読むこと」については全国平均を3.6ポイント上回っている。昨年度の調査結果を受け、各校で「書くこと」「読むこと」の領域における学習内容を重視して取り組んできた結果だと考える。</p> <p>○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の項目においては、3問中2問が全国平均、県平均共に上回っている。各校においてモジュール学習等の時間を活用して基礎・基本の定着に取り組んできた成果であると考え。</p> <p>●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の項目において、同音異義語（かんしん＝正答「関心」）の正答率が低かった。日常生活において読んだり書いたりする経験を積み重ねることで、語彙を拡充し文の中で正しく使い分けができるようになる必要がある。その際、本や新聞を読むことも効果的である。児童質問紙の(19)(21)の読書に関する項目や、(22)の新聞を読むことに関する項目を見ると「当てはまる」と回答した児童数の割合が全国、県共に下回っている。そのことから、児童の読書への関心を高め、幅広い読書活動を推進していく必要があると考える。</p> <p>●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」の項目において、全国平均、県平均共に下回っている。ことわざは児童にとって日常生活の中で使うことが少ないため、掲示物を活用するなど児童の目に触れる機会を増やす工夫が必要である。</p> <p>●「話すこと・聞くこと」の領域においては、全国平均を2.5ポイント上回ったが、県平均を1.9ポイント下回った。特に「目的に応じて、質問を工夫する」の項目において、全国平均を1.4ポイント、県平均を5ポイント下回っている。学習においては、目的意識・相手意識を明確にした活動になるよう指導の工夫が必要である。また、日常生活においても、学んだことを活用する機会を設けることが学んだことを定着させるために必要であると考え。</p>

小学校 算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	850	9.6 / 14	69	10.0	2.9
富山県(公立)	8,385	9.7 / 14	69	10.0	2.9

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上 ○全国以上】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			射水市教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		14	◎ 69	69	66.6
学習指導要領の領域	数と計算	7	○ 66.9	67.2	63.2
	量と測定	3	○ 53.7	56.0	52.9
	図形	2	◎ 78.8	78.8	76.7
	数量関係	7	○ 71.4	71.9	63.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	○ 63.4	64.9	62.2
	数量や図形についての技能	4	◎ 79.9	78.8	76.6
	数量や図形についての知識・理解	2	○ 68.1	69.1	70.1
問題形式	選択式	5	75.2	75.9	72.7
	短答式	5	◎ 78.6	78.1	72.8
	記述式	4	○ 48.5	50.7	47.4

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

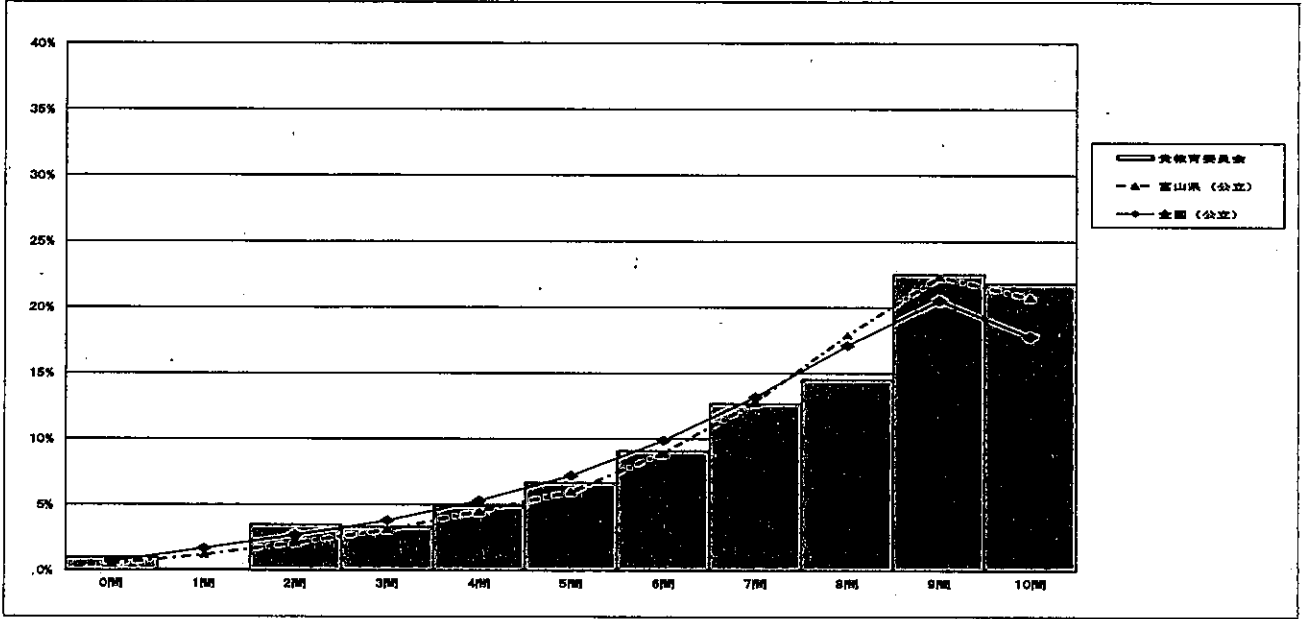
小学校算数

<p>結果の概要</p>	<p>○平均正答率において、全国平均を2ポイント上回っている。また、学習指導要領のすべての領域において全国平均を上回っている。「図形」領域は県平均を0.5ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率において県平均とはほぼ同じであるが、領域別では、「量と測定」は2.3ポイント、「数量関係」は0.5ポイント下回っている。また、記述式の問題では、全国平均を1.1ポイント上回っているが、県平均を1.7ポイント下回っている。</p>
<p>各領域・ 評価の観点 の分析</p>	<p>○「数と計算」の領域では全国平均を2.7ポイント上回っている。特に、加法と乗法が混合した「$6+0.5\times 2$」を計算する問題（設問2(4)）では、正答率が70.6ポイントと全国平均を10.5ポイント、県平均を2ポイント上回っている。</p> <p>●「$1800\div 6$は、何m分の代金を求めているかを選ぶ」問題（設問3(4)）では、全国平均を4.8ポイント、県平均を3.2ポイント下回っている。除数、被除数とも10倍しても求める数は変わらないことの理解が十分でないと考えられる。また、正答率が最も低いのは、「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方を説明する問題」（設問3(2)）の正答率は32.6ポイントであり、無回答も7.3ポイントと高い。効率的に計算するための工夫について、必要な言葉を用いて表現する学習を充実させ、そのよさを感じ取ることができるようにしていくとよい。</p> <p>●「量と測定」の領域では、全国平均を0.8ポイント上回っている。しかし、「図形の面積を求める式『$20-4$』の意味を解釈し、その求め方を説明する」問題（設問1(3)）では、正答率が39.9ポイントと低く、全国平均を4ポイント、県平均を4.4ポイント下回っている。筋道を立てて、必要な言葉を落とさず、相手に伝わるよう説明したり記述したりする学習を展開していく必要がある。</p> <p>○「図形」の領域では、全国平均を2.1ポイント、県平均を0.5ポイント上回っている。「長方形を直線で切ってきた図形の中から台形を選ぶ」問題（設問1(1)）は、正答率が94.0ポイントと高く、全国平均も県平均も上回っている。</p> <p>○「数量関係」の領域では、全国平均を3.1ポイント上回り、特に、「資料の特徴や傾向を読み取る」問題（設問2(1)）は、96.1ポイントと正答率が高い。</p> <p>●「日常生活において伴って変わる二つの数量を見だし、数学的に表現・処理する」問題（設問4(1)）では、80.1ポイントと正答率が高いが、全国平均を2.6ポイント、県平均を2.2ポイント下回っている。いつもそろった条件で問題を解決するだけでなく、問題を解決するために複数の情報の中から必要な数量を見い出して考える場面も必要である。また、「示された場面の状況の変化に応じて、単位量当たりの大きさを基に考える」問題（設問4(3)）では、全国平均を上回ったが、県平均を3ポイント下回っている。日常生活の中で伴って変わる2つの数量を見出し、数学的に表現・処理して判断する学習を充実させる必要がある。</p>

中学校 国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	781	7.5 / 10	75	8.0	2.4
富山県(公立)	8,563	7.6 / 10	76	8.0	2.3

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上 ○全国以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		10	○ 75	76	78
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	○ 72.1	72.6	72.2
	書くこと	2	○ 83.5	84.2	82.6
	読むこと	3	○ 75.0	76.1	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	○ 70.5	71.1	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	○ 79.1	79.3	76.5
	話す・聞く能力	3	○ 72.1	72.6	72.2
	書く能力	2	○ 83.5	84.2	82.6
	読む能力	3	○ 75.0	76.1	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	○ 70.5	71.1	67.7
問題形式	選択式	6	○ 75.0	76.4	72.6
	短答式	1	◎ 61.8	60.8	61.8
	記述式	3	○ 79.1	79.3	76.5

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

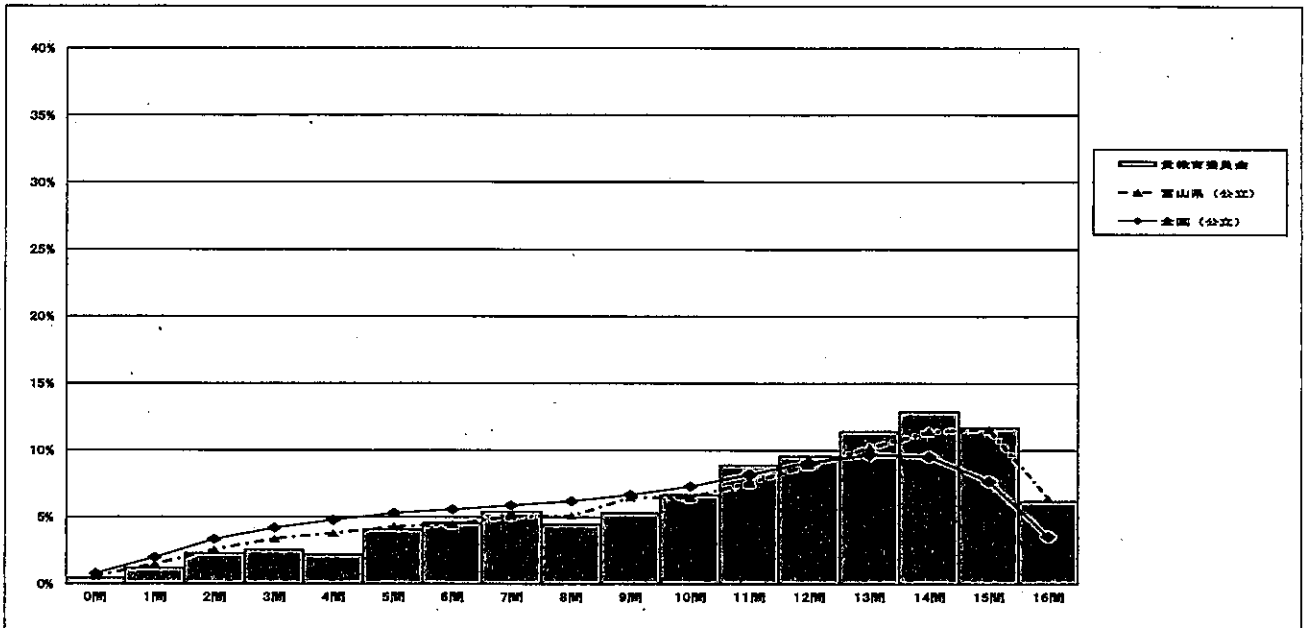
中学校国語

<p>結果の概要</p>	<p>○「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」のいずれにおいても、全国の平均正答率を上回った。また、記述式の問題における無回答率も全国平均を下回っており、意欲的に問題に取り組んでいる姿勢がうかがえる。</p> <p>●全国の平均正答率は上回ったものの、県の平均正答率との比較においては1ポイント前後下回っているものがほとんどであった。</p>
<p>各領域・ 評価の観点 の分析</p>	<p>○「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の二領域において、全国平均を2.8ポイント上回っている。特に、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」問題（設問1一）は全国平均を5ポイント、「封筒の書き方を理解して書く」問題（設問1四）も全国平均を5ポイント、県平均も1ポイント上回った。また、「活用」に関する三つの問題では、すべての領域で全国平均を上回った。特に、「書くこと」の領域における「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」問題（設問3二）は全国平均を4ポイント近く上回った。これは、市中教研国語部会において五年前から力を入れて取り組んできた「書くこと」の指導や「読むことを書くことに生かす指導」が一定の成果を収めたものと考えられる。</p> <p>●「読むこと」の領域でも、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題（設問1二）は、全国平均は上回るものの、県平均より3ポイント以上下回る結果であった。少し長い文章の読解となると、内容把握が困難な生徒が多いと思われる。説明的文章の構成を把握しながら各段落の要点や書かれている情報を的確につかむ学習をさらに充実させたい。また、「書くこと」の領域における「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」問題（設問3一）は全国平均をも2ポイント近く下回った。要因とし、て言葉の使い方や段落と段落をつなぐ一文の役割を理解できていないことが考えられる。論理的な文章の読解指導で、論を展開していくときのつなぎの文や言葉に注目させるとともに、実際に意見文や批評文を書く活動において、論を展開するときの表現を熟考させるなど、言葉に対して自覚的に思考・判断・表現する言語活動を仕組む必要がある。さらに、「話すこと・聞くこと」の領域の「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」問題（設問2三）は、全国平均は上回ってはいるものの、正答率が62%と他の問題に比べて低調である。この問題では、まず話題を明確に把握すること、次にそれに対する自分の考えをもつこと、さらにその考えを分かりやすく表現することが求められる。ディベートやパネルディスカッション等の討論の授業は言うまでもなく、日頃から「話すこと・聞くこと」の言語活動の充実を図った授業づくりが求められる。</p>

中学校 数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	778	10.716	67	12.0	4.0
富山県(公立)	8,561	10.416	65	11.0	4.2

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上 ○全国以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			責教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		16	◎ 67	65	58
学習指導要領の領域	数と式	5	◎ 69.8	68.5	62.8
	図形	4	◎ 77.3	75.5	72.4
	関数	3	◎ 52.9	47.6	42.8
	資料の活用	4	◎ 64.5	63.1	59.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	8	◎ 57.8	56.8	51.0
	数学的な技能	3	◎ 75.8	70.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	◎ 77.0	74.7	71.3
問題形式	選択式	5	◎ 66.0	65.7	63
	短答式	7	◎ 74.6	71.2	64.6
	記述式	4	◎ 55.6	53.2	47.1

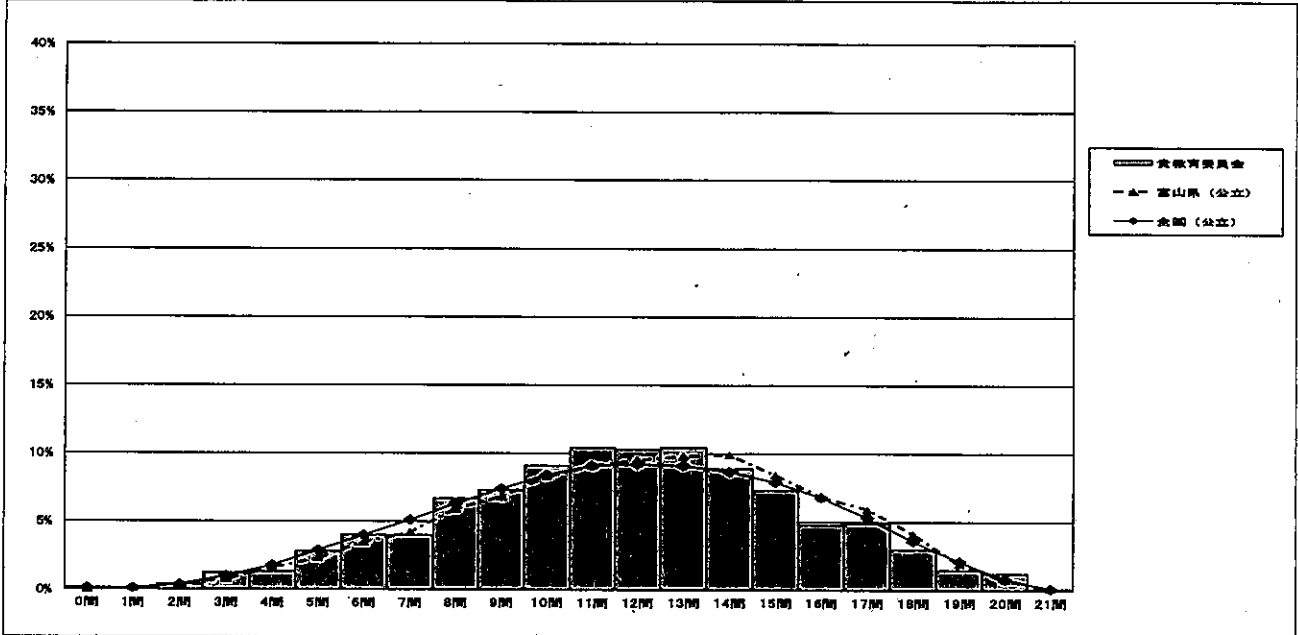
※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<p>結果の概要</p>	<p>○全体の平均正答率において、全国平均より7.2ポイント上回り、すべての学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式における平均正答率においても、全国平均を上回っている。</p> <p>●問題別において、全国平均との比較では全問上回っているが、県平均との比較では16問中5問が下回っている。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>○全領域において、全国平均、県平均を上回っている。「関数」の領域では、平均正答率が、全国平均より12.1ポイント、県平均より5.3ポイント上回っており、特に、「反比例の表から式を求める」問題（設問4）は、全国平均を20.6ポイント上回っている。市中教研数学部会における関数領域についての研究の取組の成果と考える。</p> <p>○全観点において、全国平均、県平均を上回っている。「数学的な技能」の観点では、平均正答率が、全国平均より11.9ポイント、県平均より5.3ポイント上回っている。各校で計算等の復習問題を授業導入時等に取り入れたり、単元末や学期末に取り入れたりするなど、計画的に学び直しの場を設定した取組の成果と考える。</p> <p>○質問紙では、数学に関する6項目すべてにおいて、「当てはまる」「どちらか」というと当てはまる」を合わせた回答が、全国平均、県平均を上回っており、「数学への関心・意欲・態度」の観点においても、全国平均、県平均を上回っている。</p> <p>●問題別において、全国平均を全問上回っているが、「数学的な見方や考え方」の観点では、県平均を8問中4問下回っている。また、正答率が50ポイント未満の問題が3問あり、すべて「数学的な見方や考え方」の観点の問題である。「数学的な見方・考え方」の具体については、今回の学習指導要領改訂において、改めて明らかにされた。それを確認し、今後の授業改善に生かしていく必要がある。</p> <p>●「四角形ABCDがどのような四角形であれば、$AF=CE$になるかを説明する」（設問7(3)）等の問題では、正答の条件を完全に満たす解答、一部条件を満たさないが正答とみなす解答例が示されている。それらの問題では、一部条件を満たさない正答の割合が多い。日頃の授業で、論理的に筋道を立て、適切な言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて、ポイントを押さえた分かりやすい解答や説明ができるよう心がけることで、数学的な表現力を高めていけると考える。</p>

中学校 英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	776	11.6 /21	55	12.0	3.8
富山県(公立)	8,558	12.0 /21	57	12.0	3.8

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上 ○全国以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		21	55	57	53.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	◎ 65.6	68.9	67.9
	話すこと(参考値)				
	読むこと	6	54.7	57.5	53.6
	書くこと	8	○ 47.0	47.5	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0			
	外国語表現の能力	1	◎ 2.4	1.8	1.6
	外国語理解の能力	6	43.5	45.8	43.7
	言語や文化についての知識・理解	14	64.3	66.2	61.7
問題形式	選択式	13	70.0	73.3	71.0
	短答式	5	◎ 46.3	45.8	43.2
	記述式	3	○ 7.3	8.0	6.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

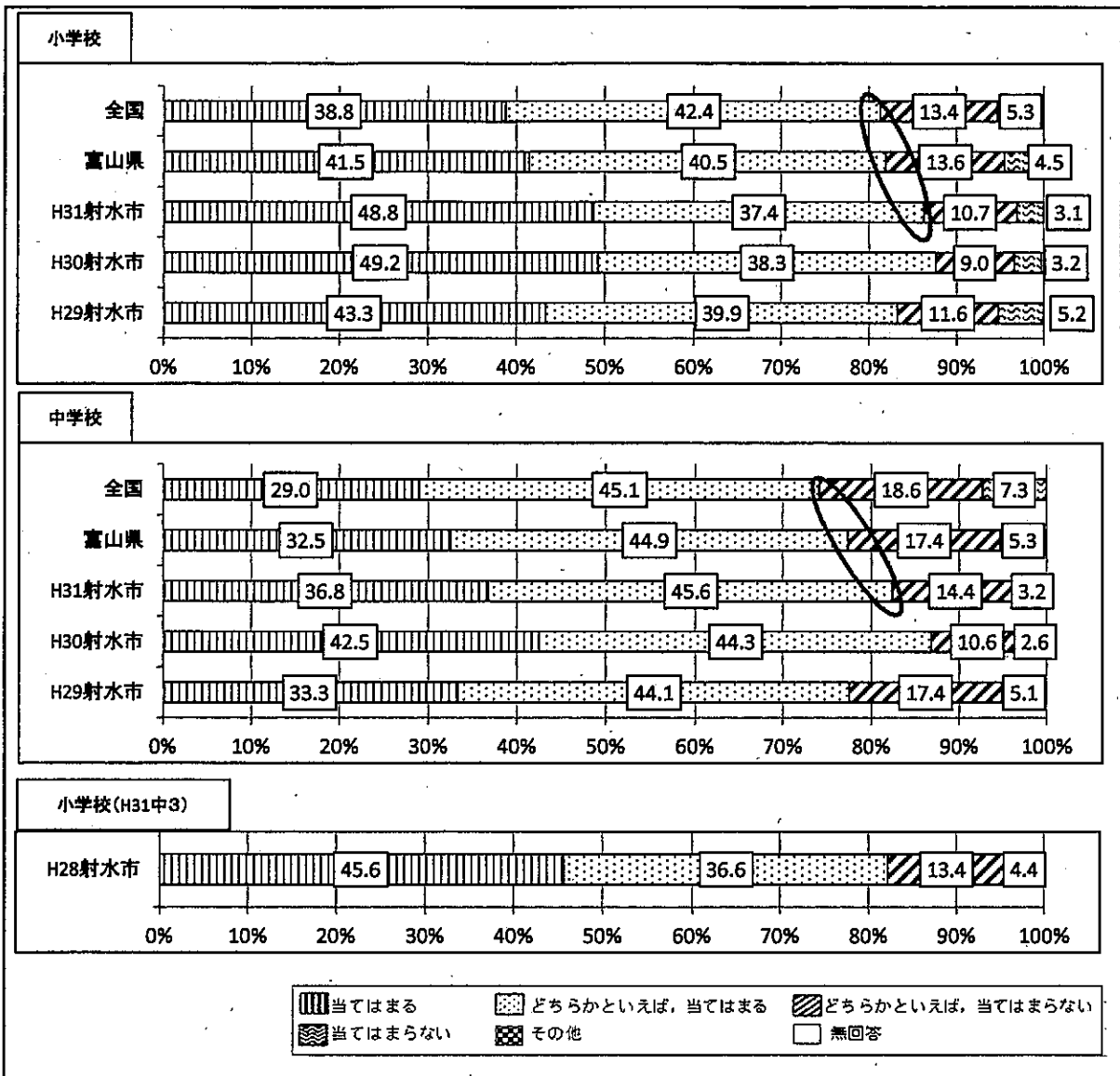
中学校英語

<p>結果の概要</p>	<p>○評価の観点の「外国語表現の能力」に関する問題では、全国平均と県平均の正答率よりも0.6ポイント上回っている。また、設問1(4)以外は、すべての問題において、無回答率は全国平均の数値以下であり、積極的に問題に取り組んでいる様子がうかがえる。</p> <p>●全体の平均正答率は全国平均を1ポイント、県平均を2ポイント下回っている。全国や県に比べると上位層の割合が低い。4技能を組み合わせ、進んで英語を使う活動を取り入れながら、より丁寧な指導で、中間層の理解度を向上させていく必要がある。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>○「書くこと」の観点では平均正答率が47.0ポイントであり、全国平均を1.2ポイント上回っている。また、「学校を表す2つのピクトグラムを比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く」問題（設問10）は、正答率が著しく低いものの、全国、県を0.6ポイント上回っている。質問紙調査の「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」（質問番号(64)）では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」で88.5ポイントと高い。また、「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーション等、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」（質問番号(63)）では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が90.8ポイントと同じく高い。言語活動の工夫について市中教研英語部会等で研修を深め、日頃の授業で意識して指導に当たった結果だと考えられる。</p> <p>●「聞くこと」の観点では、平均正答率が65.6ポイントであり、全国平均より2.3ポイント、県平均より2.7ポイント下回っている。特に、「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかをみる」問題の設問1(3)は全国平均より4.9ポイント、県平均より5.2ポイント下回っている。同じく、設問1(4)は全国平均より4.5ポイント、県平均より6.4ポイント下回っている。情報を正確に聞き取ることによって課題がみられる。ICTの活用やALTとの効果的なチームティーチング等、日頃の授業を通して生徒が自然な口調で話される英語に慣れるように工夫していく必要がある。</p> <p>●「外国語理解の能力」に関する問題では、すべての問題において県平均よりも正答率が下回っている。特に、「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができるかをみる」問題（設問6）は、県平均よりも3.5ポイント下回っている。また、「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができるかどうかをみる」問題（設問7）も県平均より3.1ポイント下回っている。読み手である生徒が主体となり、書かれていることをすべて読み取るのではなく、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる活動を取り入れていく必要がある。</p>

3 学習状況調査の結果及び考察 <抜粋>

(1) 児童・生徒質問紙より

① 自分には、よいところがあると思いますか。

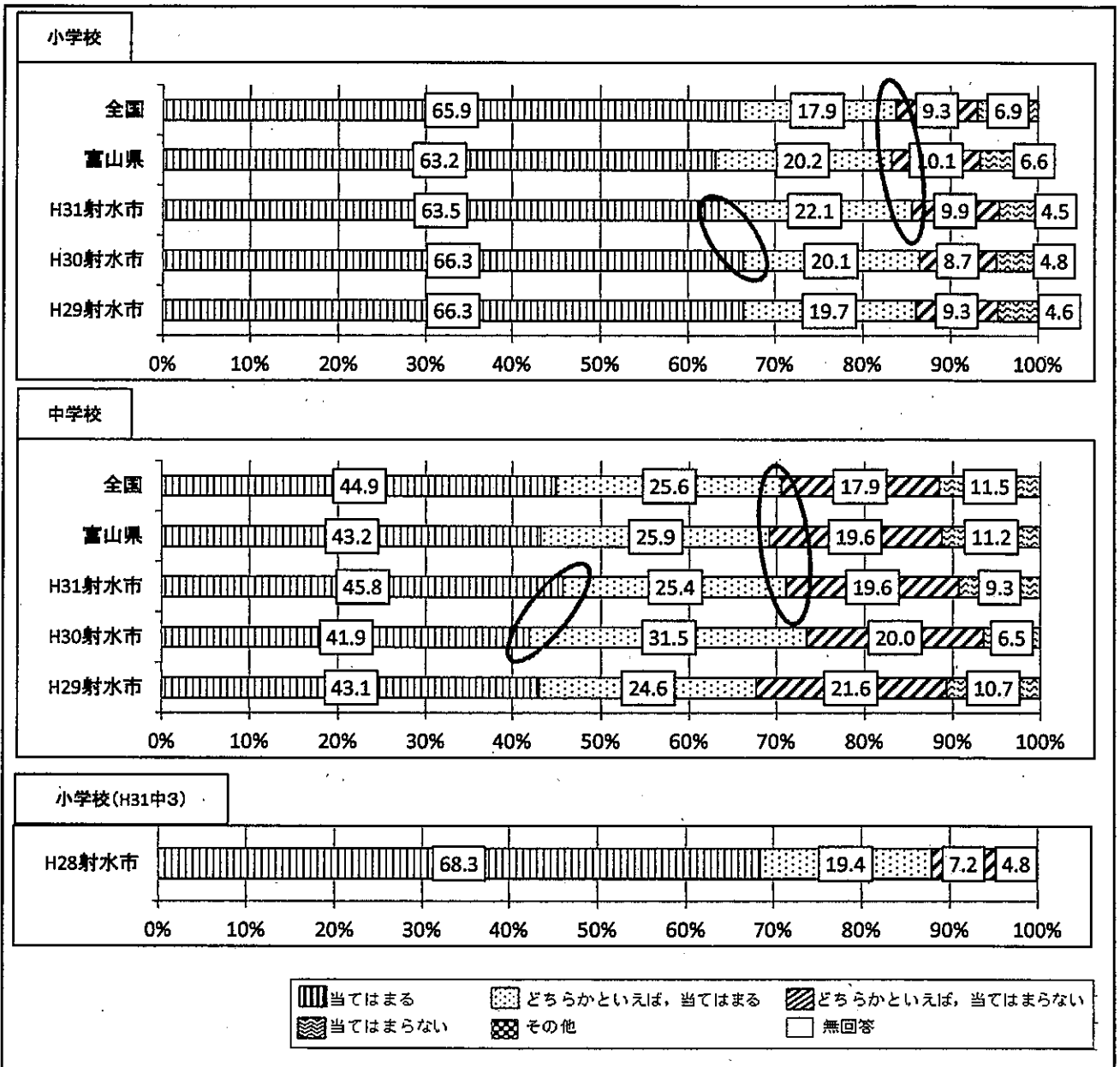


【考察】

小学校、中学校とも、「当てはまる」が昨年度よりそれぞれ0.4ポイント、5.7ポイント減少したが、「どちらかといえば、当てはまる」の割合を合わせるといずれも県平均や全国平均を上回っており、依然として自分に自信をもつ児童生徒の割合が高いといえる。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目でも、小学校、中学校ともに高いポイントを示していることから、市全体で「射水スタンダード～授業のABC～」を活用して「自尊感情」の育成を図る教育活動を継続して実践している成果であると考えられる。

今後も、昨年度までの「豊かな人間関係づくり支援事業」の成果を基盤に、「学び合う集団づくり推進事業」において「Q-U調査」の分析と効果的な活用を進め、「人間関係づくり、学年・学級経営」と「学力向上、授業力向上」の二面から「学び合いの成立と高まり」を推進していくことが大切である。さらに、児童生徒の行事や学習等における振り返りを確実にし、自らの成長を実感するとともに、教師が認めるだけでなく児童生徒が相互によさを認め合う機会を積極的に設け、「自己有用感」を育むよう支援することが望まれる。

② 将来の夢や目標を持っていますか。

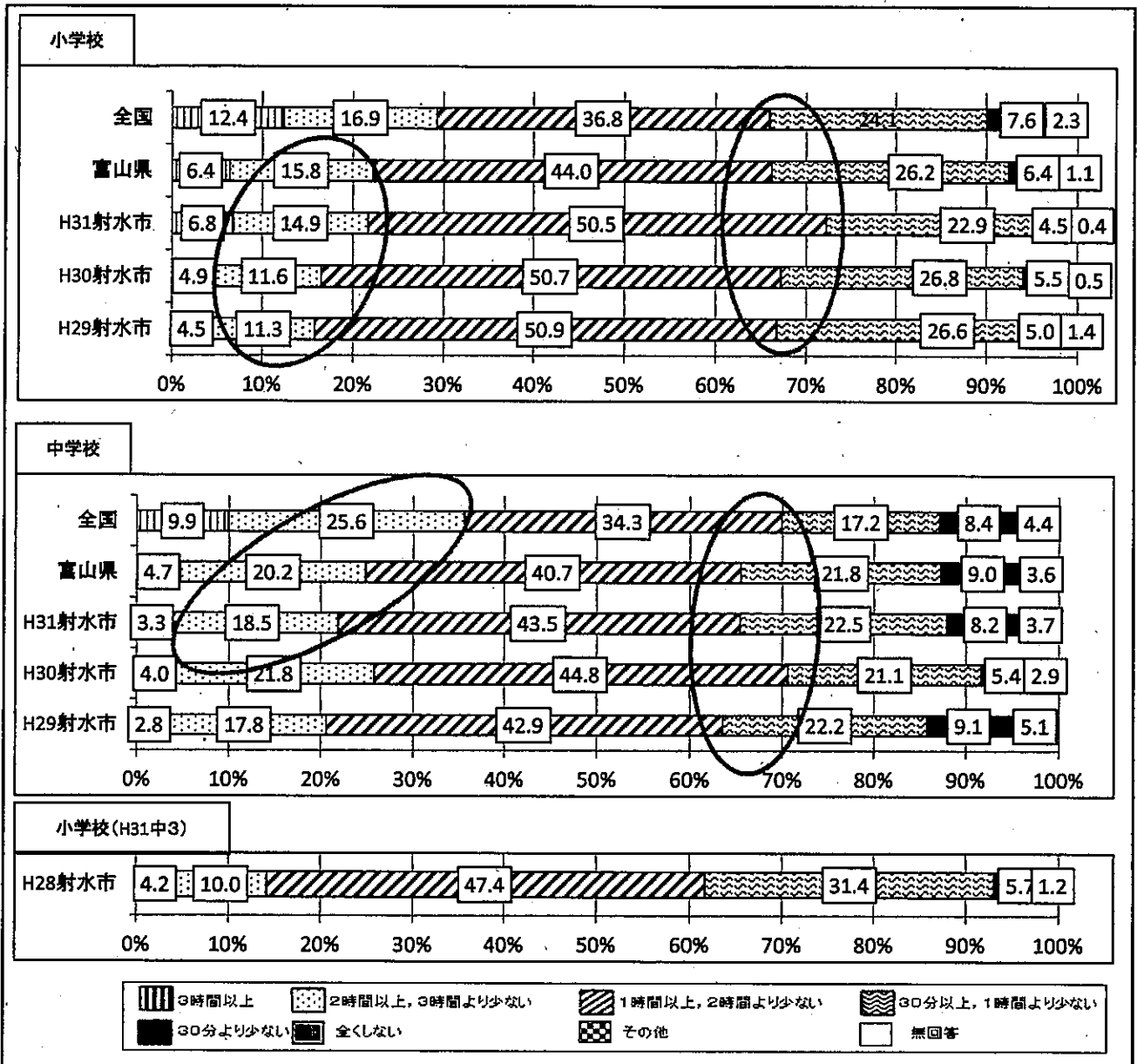


【考察】

小学校では、「当てはまる」が2.8ポイント減少したものの、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合は、県平均や全国平均をやや上回っている。中学校では、「当てはまる」が昨年度より3.9ポイント増加し、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合も県平均や全国平均をやや上回っているが、小学校時との比較では、22.5ポイント減少している。

小学校では、キャリア教育の視点から教育活動の充実が図られている成果と捉えることができる。中学校では、生徒が上級学校への進学や将来の生き方を具体的に考え始める時期であることが数値的にも反映されており、実際、理想と現実との間で悩みをもつ生徒も多い。将来の夢や進路への憧れ、具体的な目標意識をもたせる指導の充実を図るとともに、一人一人の生徒に寄り添い、あらゆる教育活動で目標を達成しようとする意欲を向上させるような支援を行っていくことが重要であると考えられる。

③ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

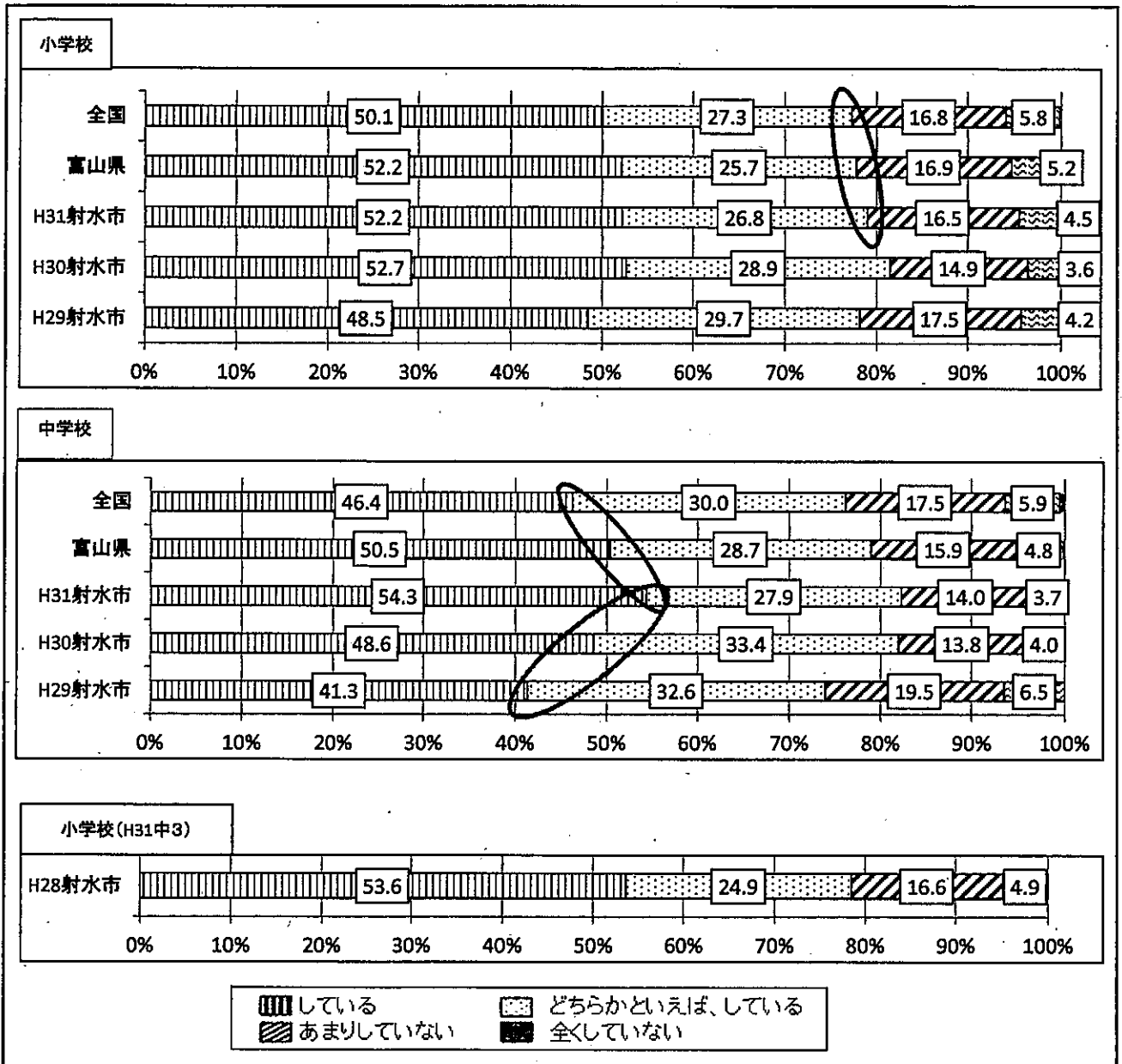


【考察】

小学校、中学校共に、2時間以上家庭学習等に取り組む児童生徒は全国平均県平均より少ない。各教科の平均正答率をみると、小学校・中学校共におおよそ全国平均は上回っているが、県平均を若干下回る傾向にある。特に英語に関しては全国平均も下回った。クロス集計を見ると「1時間以上3時間未満」家庭学習をしている児童生徒の平均正答率がどの教科においても高い。特に英語は長時間学習するほど正答率が高い傾向がみられる。射水市においては、小学校は「1時間以上」家庭学習に取り組んでいる割合が昨年度より5.0ポイント増加しているのに対し、中学校は「1時間以上」取り組んでいる割合が昨年度より5.3ポイント減少している。これは、全国平均や県平均、さらには小学校の値を下回っている。

小学校は、本市全体の取組である「進んで学ぶ射水っ子」のノートカバーを活用した家庭学習の推進が定着し、一定の成果を上げているといえる。今後は、時間だけでなく質の向上を図りながら継続していくことが望まれる。中学校は、家庭学習2時間以上を目標に、ネット利用状況とも関連付けながら、家庭学習時間の確保、増加を図っていく必要があると考えられる。

④ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

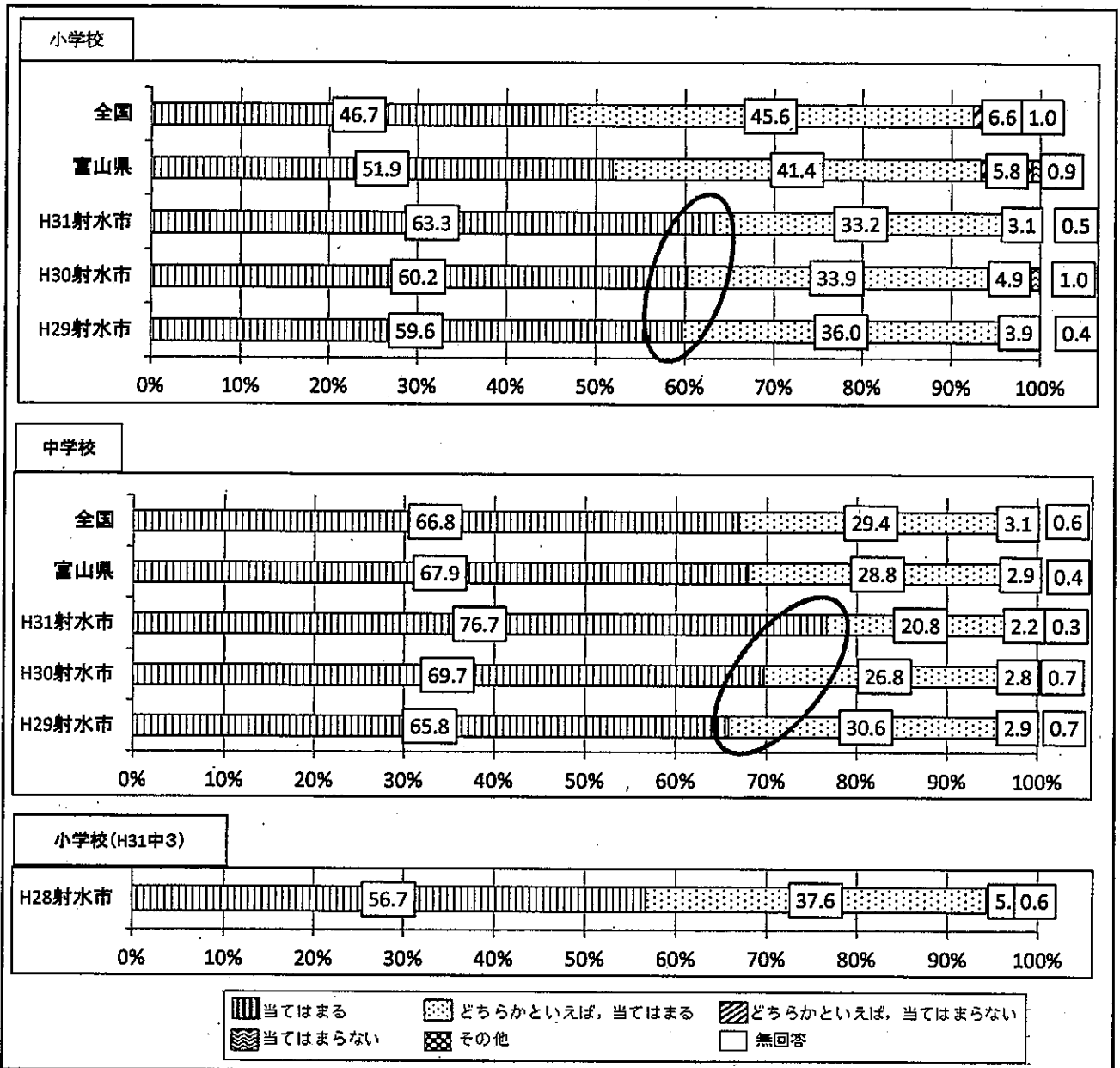


【考察】

小学校では、「している」が昨年度より0.5ポイント下回っているが、「している」と「どちらかといえば、している」を合わせると、全国平均や県平均を上回っている。中学校では、「している」が昨年度より5.7ポイント上昇し、また、全国平均を7.9ポイント、県平均を3.8ポイントと、それぞれ大きく上回っている。さらに、一昨年度と比較すると、13ポイントも上昇している。

一昨年度より「あったか家族3つのポイント 家族と一緒に 食事、おしゃべり、お手伝い」の啓発を継続してきたことが、ポイントの上昇につながっていると考えられる。また、毎月25日を「あったか家族の日」に設定したことや、中学校では部活動休養日等を設け、家族と一緒に過ごせる時間を増やしたことも、家族団らんにつながったと考えられる。今後も、射水市「あったか家族応援隊」市民ネットやPTA等との連携を強化し、家庭が子供にとって「安心できる居場所」となるよう働きかけていく必要がある。

⑤ 学校のきまり【規則】を守っていますか。

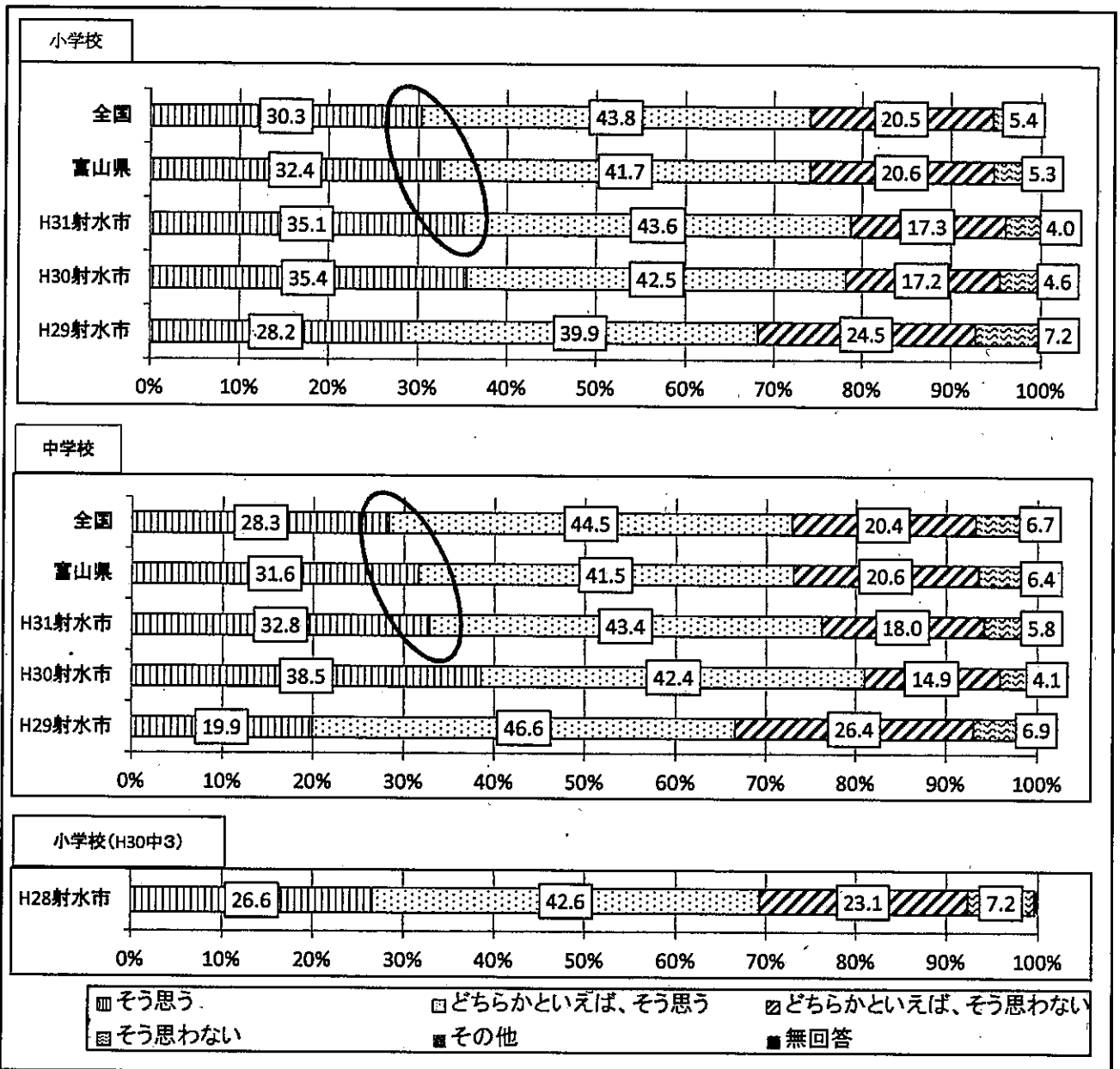


【考察】

小学校は「当てはまる」が昨年度より3.1ポイント上昇し、全国平均や県平均を上回っている。中学校は「当てはまる」が昨年度より7.0ポイント上昇し、全国平均や県平均を上回っている。また、小学校時と比較すると20.0ポイント上昇している。各校が、規範意識を育む取組を意図的・計画的に推進してきた成果だと考えられる。クロス集計を見ると、「当てはまる」と答えた児童生徒の平均正答率が、どの教科においても高い。規範意識の高さと学力向上との相関性がみられる。

今後も、規範意識を意図的・計画的に育む取組を継続していくとともに、近年トラブルが増加しているSNSやインターネット上での規範意識をより一層高める指導を強化していく必要がある。各家庭や児童生徒の価値観は多様化しているが、子供たちの自尊感情を高め、よりよい自分を目指して成長していくために必要な規範意識の大切さを実感させることが、今後の学力向上へつなげるものと考えられる。

⑥ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

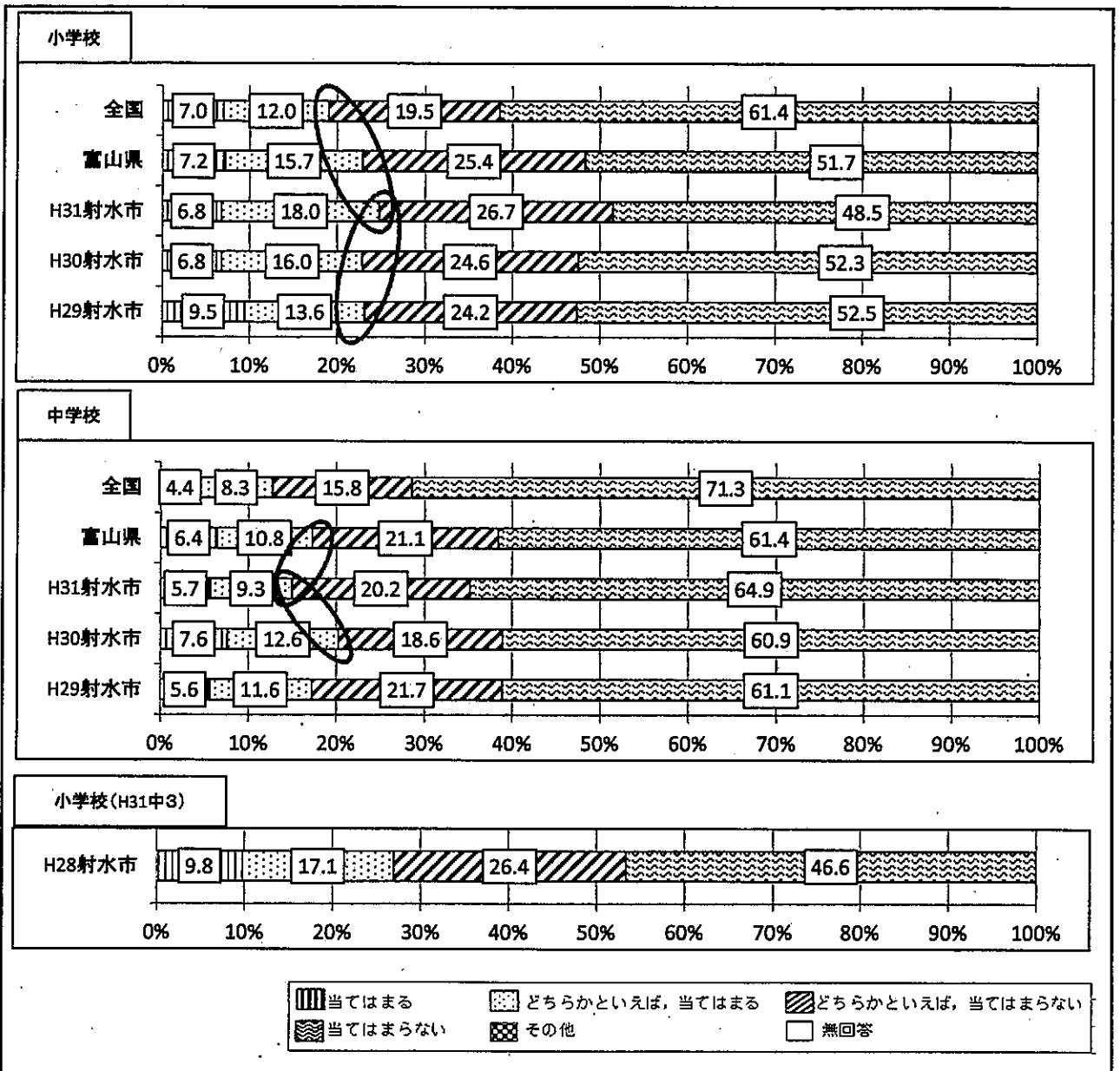


【考察】

小学校は「当てはまる」が昨年度より0.3ポイント低下しているものの、全国平均や県平均を上回っている。中学校でも「当てはまる」が昨年より5.7ポイント低下しているものの、全国平均や県平均を上回っている。また、小学校時と比較すると6.2ポイント上昇している。これは、中学校区単位で「豊かな人間関係づくり支援事業」を通し、Q-U調査の実施や、調査結果を活用して望ましい学級集団づくりのための研修の推進、そして話し合い活動を取り入れた授業改善等が一定の成果を上げているものと考えられる。クロス集計を見ると、「当てはまる」と答えた児童生徒の平均正答率が、どの教科においても高い。話し合う活動と学力向上との相関性がみられる。

今後も「学び合う集団づくり推進事業」において「人間関係づくり、学年・学級経営」「学力向上、授業力向上」の二面から「学び合いの成立と高まり」を推進する。そして、安心して自分の考えを述べたり、学級の友達の意見を聞いたりすることができるような学級内の温かな雰囲気づくりを行っていくとともに、話し合い活動を授業に取り入れていくことが、学力の向上につながると考えられる。

⑦ 新聞を読んでいますか

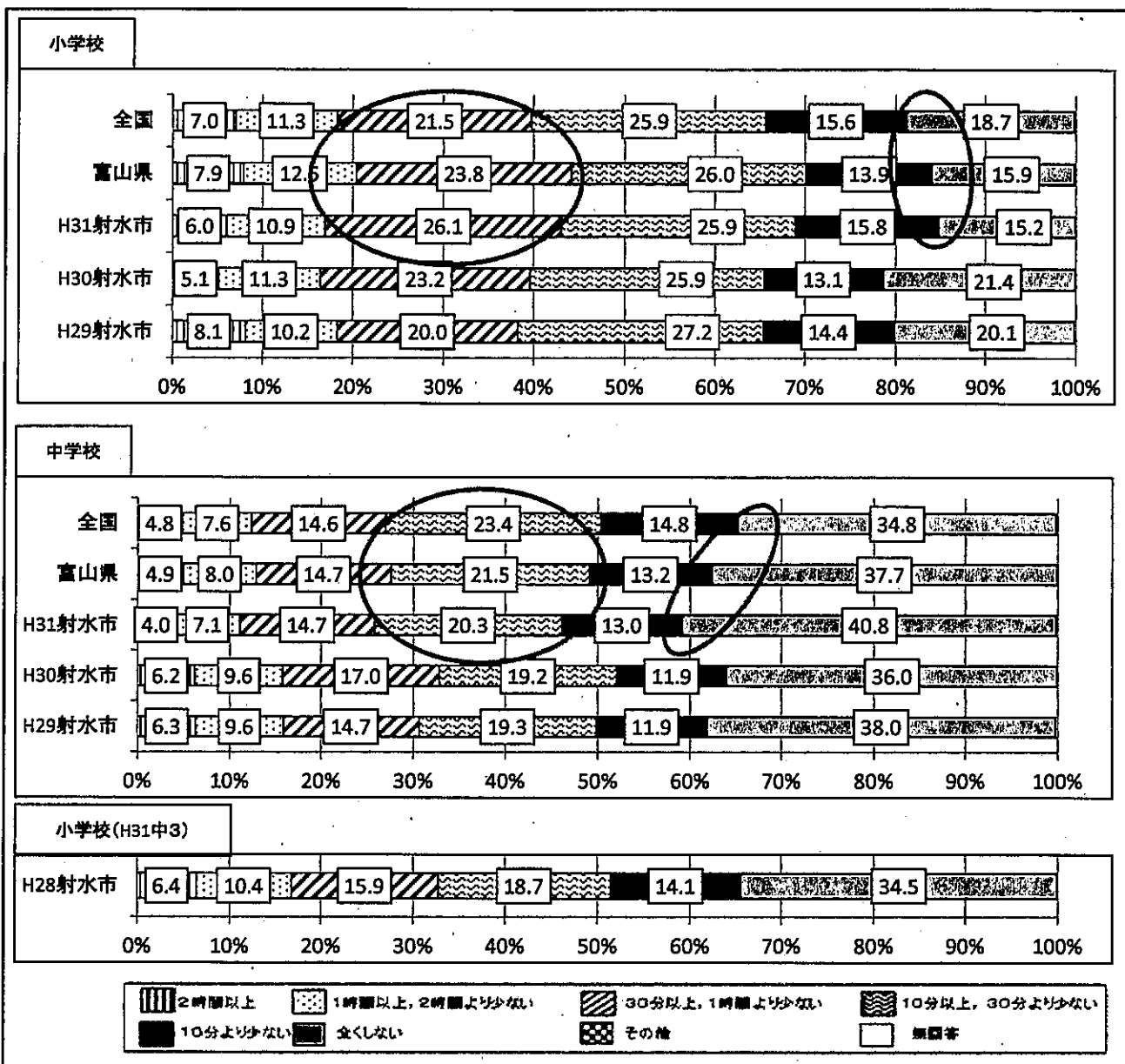


【考察】

小学校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合が県平均、全国平均を上回り、昨年度と比較してもやや上昇している。中学校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合が、全国平均は上回っているものの、県平均を下回り、さらに昨年度との比較においても5.2ポイント減少している。また、小学校時と比較して、11.9ポイントの低下となっている。

新聞を購読していない家庭が増えていること、中学校では部活動や宿題等に費やす時間が優先されることなどが考えられる。その中で、各教科や総合的な学習の時間等、学校のあらゆる教育活動に、各教室に配置されている新聞を活用するなどして、新聞をより身近に感じる工夫をしていくことが望まれる。

⑧ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

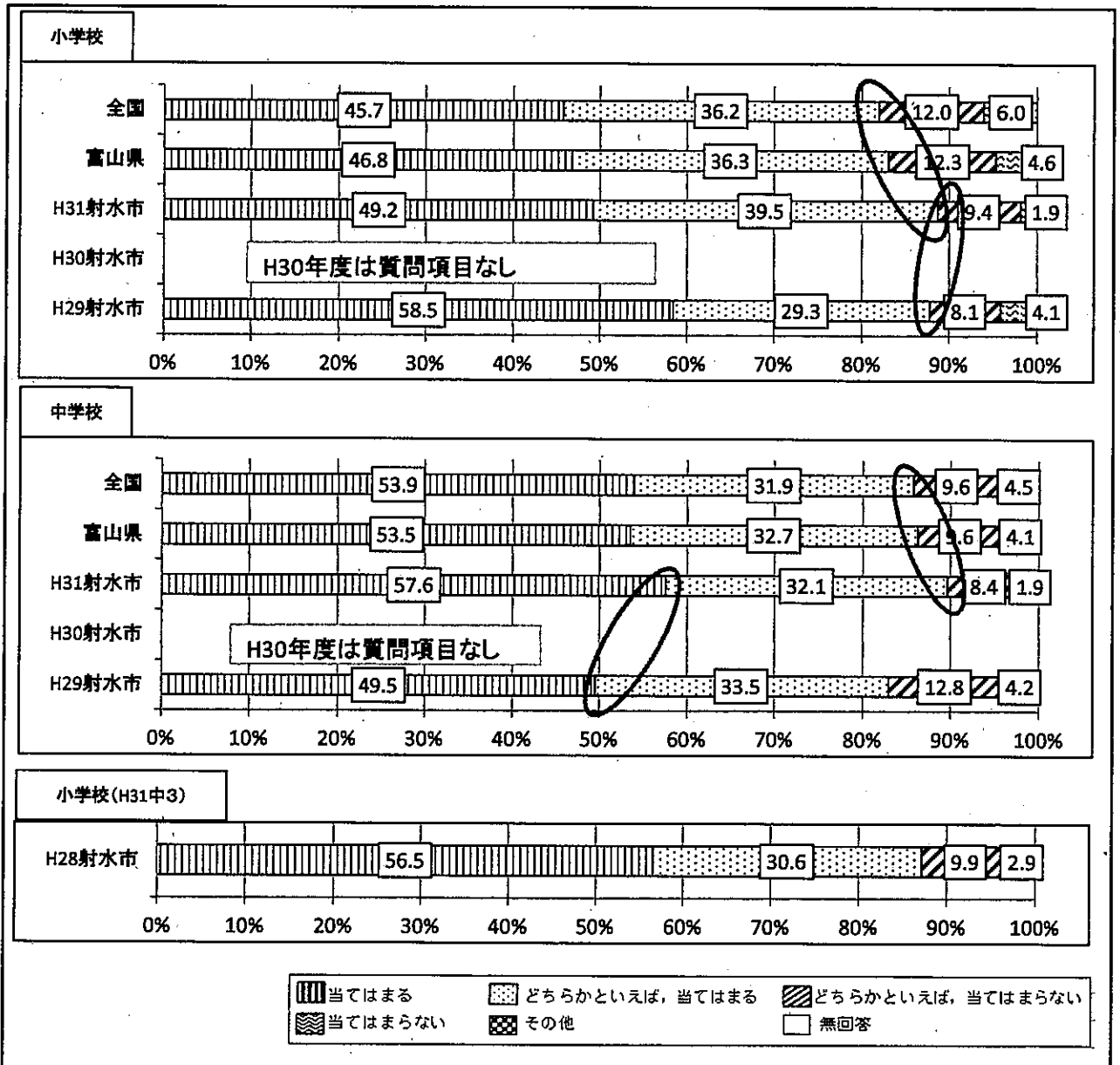


【考察】

読書時間について、小学校では、全国平均、県平均と比べて、「30分以上1時間未満」読書する児童が多く、「全くしない」児童の割合も少ない。中学校は、「全くしない」の割合が全国平均、県平均より多くなっている。クロス集計の結果を見ると、小学校は「30分以上1時間未満」、中学校は「10分以上30分未満」毎日読書をしている児童生徒の平均正答率がどの教科においても高かった。読書をすることで文章理解力が身に付き、国語に限らず学力向上につながったと考えられる。しかし、その一方、読書の時間が上記の時間を超えると、正答率が下がる傾向がみられた。読書に時間を取りすぎると、家庭学習に取り組む時間が少なくなるためだと考えられる。

小学校・中学校共に、1日30分程度、時間を決めて読書に親しむ習慣を推進し、活字から文意を読み取る力を伸ばしていくことが望ましい。

⑨ 学校に行くのは楽しいと思いますか。



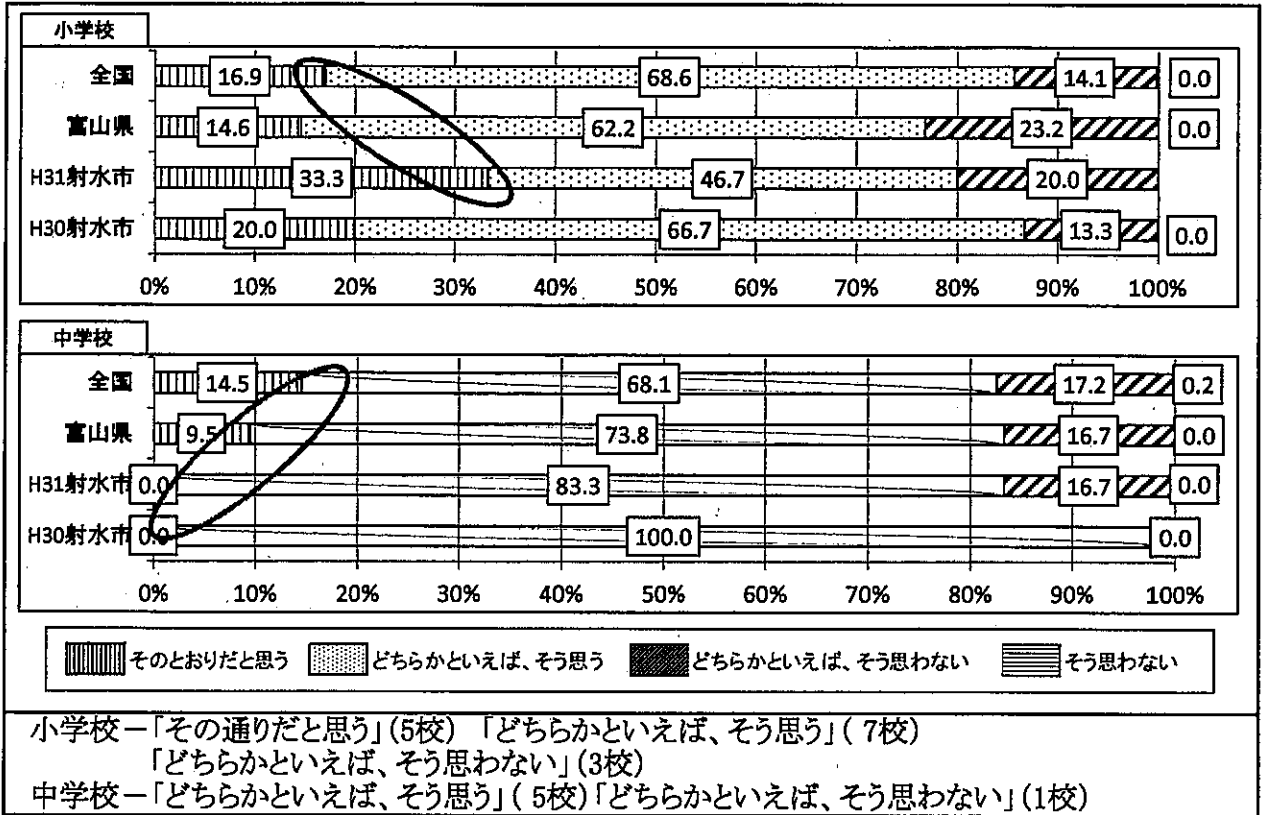
【考察】

小学校では、「当てはまる」が一昨年度より9.3ポイント減少したが、「どちらかといえば、当てはまる」を含めると、やや上昇している。中学校では、「当てはまる」が一昨年度より8.1ポイント、「どちらかといえば、当てはまる」を含めると6.7ポイント上昇している。また、小学校時と比較しても、1.1ポイント上昇しており、充実感をもって学校生活を送っている生徒が多いといえる。

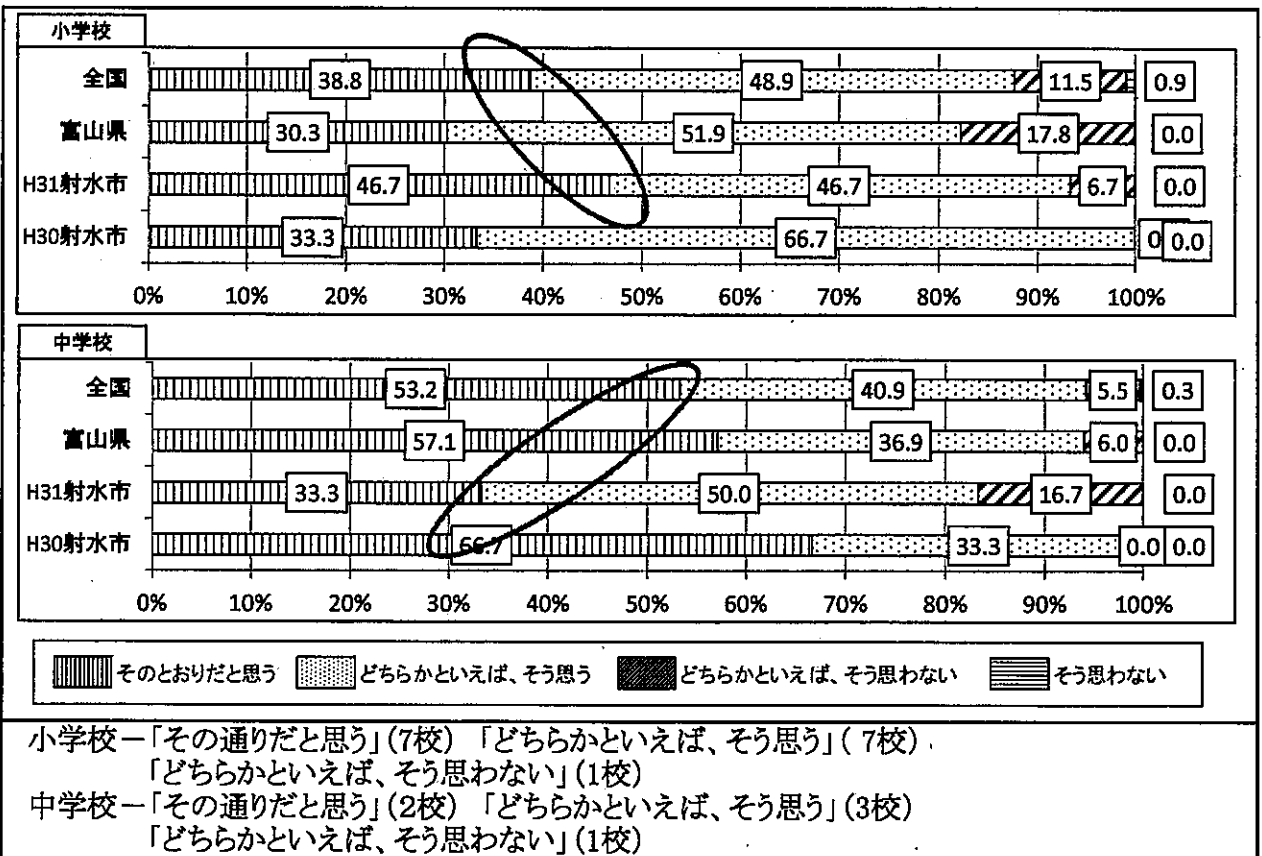
小学校、中学校ともに、「学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」や「学校の規則を守っていますか」の項目で、県平均や全国平均を上回っていることから、安心して楽しく集団生活を送ることができているのではないかと考えられる。一方で、「当てはまらない」と答えた児童生徒や、学力調査を受けていないためデータには表れていない不登校の児童生徒に対して、細やかな支援を行っていくことが望まれる。

(2) 学校質問紙より

① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

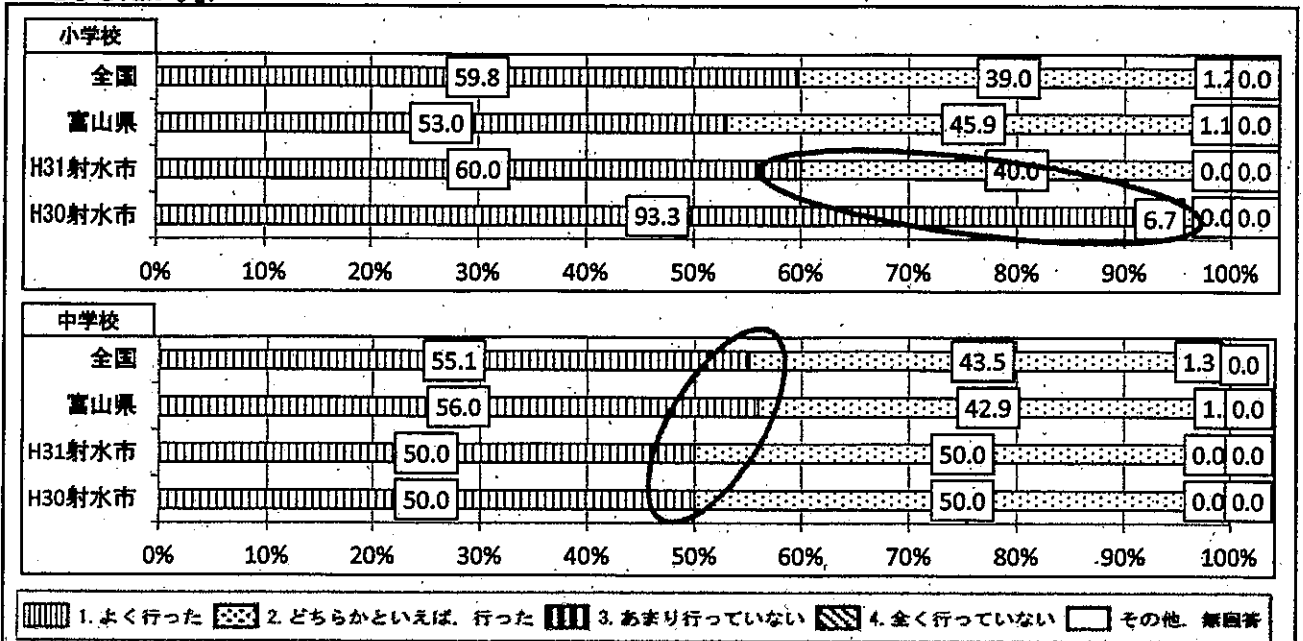


② 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



「射水スタンダード～授業のABC～」に位置付けている「主体的な学習態度」は、小学校では、昨年度及び全国、県平均を上回っているが、中学校では「そのとおりだと思」割合が0ポイントである。「私語」については、「そのとおりだと思」が、小学校では昨年度及び全国、県平均を上回っている。中学校では昨年度及び全国・県平均を下回っている。
 中学校において、主体的な学習態度や学習規律の指導を一層充実させる必要がある。

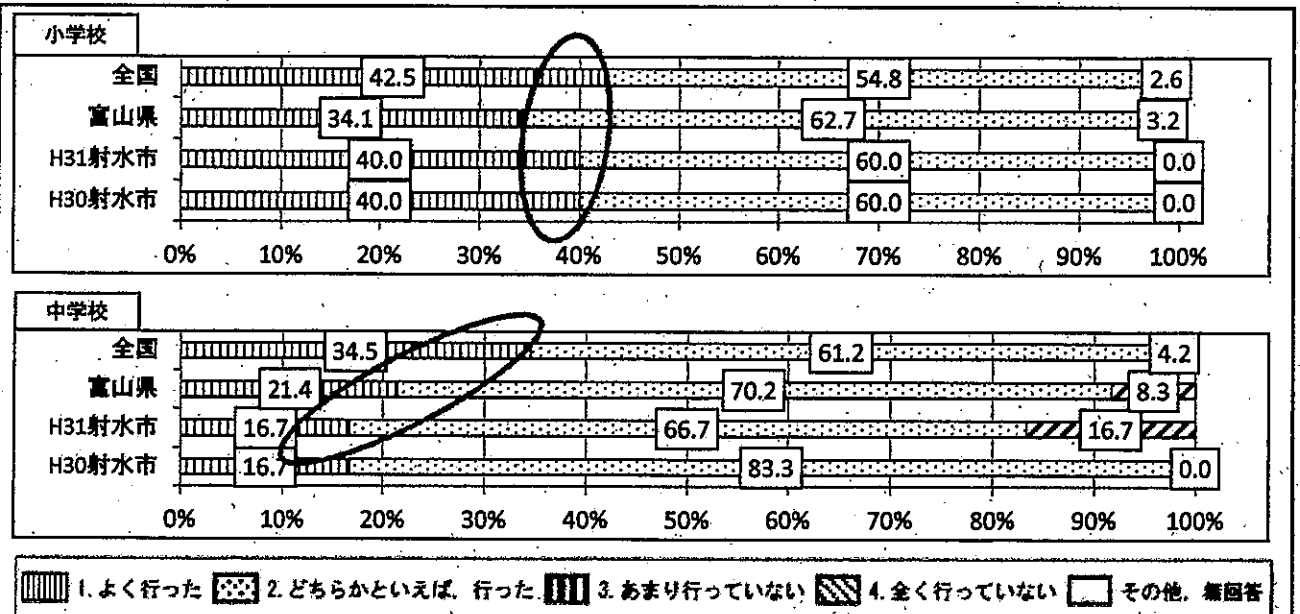
③ 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。(質問内容改変 平成30年度は「よい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか。」)



小学校-「よく行った」(9校) 「どちらかといえば、行った」(6校)
 中学校-「よく行った」(3校) 「どちらかといえば、行った」(3校)

小学校は「よく行った」割合が、昨年度より大幅に減少し、全国平均と同等程度である。中学校では、全国平均、県平均を下回っている。しかし、児童生徒の質問紙では、「先生はよいところを認めてくれる」の項目が高いので、教師と児童生徒で差がある。今後も、射水スタンダードを意識し、児童生徒一人一人のよさや可能性を様々な教育活動を通して見付け、褒め、励まし、「自尊感情」を育てていくことが望まれる。

④ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。



小学校-「よく行った」(6校) 「どちらかといえば、行った」(9校)
 中学校-「よく行った」(1校) 「どちらかといえば、行った」(4校) 「あまり行っていない」(1校)

小中学校とも全国の平均を下回っていると同時に、中学校は、県平均も下回っている。各校の学力の課題を学習状況調査と照らし合わせながら分析し、課題解決に向けた具体的な取組の実践が望まれる。

今後の射水市の取組



IV 今後の射水市の取組

射水市学力向上委員会

射水市学力向上委員会は、射水市教育振興基本計画（平成27年2月策定）に明記された基本的施策「確かな学力の定着」を推進するため、射水市の小中学校が重点的に取り組む内容として次の事項を提示する。

1. 確かな学力を育むための計画的な研修等の充実
2. 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成
3. 基本的な生活習慣の確立及び家庭学習の定着

【方針】

- ・基本的に踏襲（大きく変えるものではない）
- ・市施策・事業との関連

<p>【調査研究事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査分析 <input type="checkbox"/> (小) カリキュラム・マネジメント <input checked="" type="checkbox"/> 学び合う集団づくりの推進（Q-U調査の効果的活用） <input type="checkbox"/> (中) 社会科副読本改訂 	<p>【教職員研修事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教育講演会 <input type="checkbox"/> 新規採用教員研修会 <input type="checkbox"/> 外国語教育研修会 <input type="checkbox"/> 市内地域巡り研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 若手教員研修会 <input type="checkbox"/> 特別支援教育研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 市授業力向上研修会（中学校区） <input type="checkbox"/> ※理科教育講座 	<p>【各種事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 射水スタンダード <ul style="list-style-type: none"> ・ABC ・本時の課題設定 ・ステージアップ ・ちょいテク <input checked="" type="checkbox"/> マイスター教員事業 <input checked="" type="checkbox"/> 学び合う集団づくり推進事業 <input checked="" type="checkbox"/> 学力向上市町村教委プラン研究委託事業 <input type="checkbox"/> ICTを活用した学級復帰支援事業 <input type="checkbox"/> 小学生学び応援塾 	<p>【その他の事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> マイサポーター制度 <input checked="" type="checkbox"/> 気がかりポスト <input checked="" type="checkbox"/> (小) 家庭学習ノートカバー <input checked="" type="checkbox"/> あったか家族応援プロジェクト <input checked="" type="checkbox"/> (中H30) ネットストップカレンダー <input type="checkbox"/> (中) 鳳雛きらめき塾
--	---	---	--

1. 確かな学力を育むための計画的な研修等の充実

- 授業の基本的事項として「射水スタンダード～授業のABC～」を共通理解し実践するとともに、定期的に自己評価を行う。
- 研究授業後の「授業研究協議ステージアップ」の活用、校内でのOJT等、教員同士が互いに切磋琢磨しながら授業改善を図る。
- 中学校区で授業力向上研修会を実施し、小中連携の観点から指導方法の接続や改善と児童生徒理解を推進する。
- 中学校区を単位とした「豊かな人間関係づくり支援事業」を基盤に、授業において教え合い学び合う集団づくりを推進する。また、各校では、学級診断尺度調査(Q-U調査)を実施し、調査結果を活用して望ましい学級集団づくりのための研修を推進する。
- 若手教員の指導力向上を目指したセンター研修、校内研修の充実を図るとともに、「授業力向上のちょいテク」を効果的に活用する。
- 射水市マイスター教員を任命し、優れた授業実践を若手教員を中心に公開することで、実践的指導技術の向上と継承を図る。

←「学び合う集団づくり推進事業」に改める。

2. 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成

- 全国学力・学習状況調査や小教研・中教研学力調査等の結果を分析し、教師の授業改善や児童生徒の生活改善に取り組む。
- 「自尊感情を育む（本時の）学習課題」の提示を意識し、児童生徒が学びの成果を、教師が指導の成果を実感できるよう、授業改善に取り組む。
- 学習につまずいている児童生徒に対し、状況に応じてきめ細かく対応できるように校内でのサポート体制を整えるとともに、個に応じた指導の機会を工夫する。
- 「単元確認問題」、「B問題に挑戦」「設問別ワークシート」（富山県総合教育センター作成）、「授業アイデア例」（文部科学省作成）等を授業のまとめや発展的な課題として位置付けるなど、活用方法を工夫し、知識及び技能の確実な習得及び思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

←（各校）

←「位置付ける」を「年間指導計画に位置付ける」

←「学力向上市町村教委プラン研究委託事業」拠点校の取組と成果を市内各校に普及する。

3. 基本的な生活習慣の確立及び家庭学習の定着

- 身に付けさせる学習規律を明確にするとともに、全教員の共通理解の基に指導を徹底する。
- 家庭学習の手引きや自主学習ノートを活用したり、家庭学習の課題を授業内容と関連させたりしながら、家庭学習の定着を図る。
- 「マイサポーター制度」を活用して学校生活における悩みの解決を支援したり、「気がかりポスト」を校務分掌に位置付けて問題等の未然防止につなげたりすることで、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。
- メディア使用時間やネット利用のルールを児童生徒自身が意識して実践できるよう、学校や家庭が支援する。
- 家庭との連携を図りながら教育活動の様々な機会を捉え、「あったか家族の3つのポイント～家族一緒に食事、おしゃべり、お手伝い～」の取組を推進する。
- 指針に則ってスポーツ少年団や中学校部活動の活動を設定し、児童生徒が計画的な生活を実践できるようにするとともに、活動時間の在り方をPTA等と連携して検討する。

←（各校）

←「家庭学習」、「ネット利用」と併せ、「計画的な生活・学習」という括りで表現する？

令和元年10月 3日

2019年度 市教育センター主管の教職員研修について

1 実施報告 (5月～8月)

※ 研修番号 (1～10) を付した研修会は「中堅教諭等資質向上研修」の選択研修 (7～11年次) として受講履歴に記すことができる。

1	教育講演会 ※3年に一度の開催		
日時	8月1日(木) 13:30～16:00	会場	アイザック小杉文化ホール
受講者	市内小、中学校教職員 (悉皆)、市婦人会、保護者、他		
講師等	飯山 暁朗 (人財教育家、一般財団法人人財開発フォーラム理事長)		
内容と成果等	市婦人会との共催。「いまどきの子のやる気を引き出す関わり方」と題し、やる気を引き出すメンタルトレーニングや大人の接し方、言葉かけについて、高校野球やオリンピック選手への事例を交え、話していただいた。多くの受講者から「参考になった」、「実践に生かしたい」の感想をいただいた。		

2	新規採用教員研修会		
日時	5月8日(水) 13:30～16:30	会場	布目分庁舎別館2階研修室
受講者	市内小、中学校新規採用教員 26名 (小16、中10)		
講師等	東 美津子 (市教育相談員)		
内容と成果等	受講者は、対人関係ゲーム等も交えた和やかな雰囲気の中で、ストレス対処やリラクセス方法について学んだ。また、市教育センターからは、Q-U調査 (「学び合う集団づくり推進事業」予算で各校実施) の活用について説明した。今後、同期採用教員の横の繋がりが強くなることを期待したい。		

3, 4	外国語教育研修会 [H30・H31]		
日時	③ 8月8日(木) 13:30～16:30 ④ 8月9日(金) 13:30～16:30	会場	大門小学校ランチルーム (③④とも)
受講者	市内小学校学級担任等教員 ③ 69名 ④ 60名 ※小学校学級担任等教員悉皆で、H30、31の2か年で4回実施する		
講師等	岡崎 浩幸 (富山大学大学院教職実践開発科長・教授) 市マイスター教員等 (2名)、ALT (1名)		
内容と成果等	小学校3,4年の外国語活動、5,6年の外国語科の導入に向け、実践的指導力の向上を図ることを目的に、「講義」、「模擬授業」、「シンポジウム」を行った。指導のポイント、教材の効果的活用、「読むこと・書くこと」の指導の実際、小中連携の視点、ALTや外国語活動指導員との打合せの仕方等、受講者が直面している課題に即した研修内容としたことで、「今後に生かしたい」、「参考になった」、「できそうな気がする」等の感想が大半であった。		

8	特別支援教育研修会		
日時	8月27日(火) 9:00~12:00	会場	布目分庁舎別館2階研修室
受講者	28名(市内小、中学校 27名、市立幼稚園 1名)		
講師等	市社会福祉課障がい福祉係主任、市マイスター教員(3名)		
内容と成果等	特別支援教育の推進を目的に、毎年度実施している研修会である。今年度は、市社会福祉課障がい福祉係から、子供たちが使える福祉制度のサービスについて学んだ。また、特別支援教育コーディネーターの役割と連携について、各校事例を交えながら理解を深めた。市立幼稚園(1園)からの受講もあり、中学校区を単位とした情報交換においても実効的なものとなった。		

9	(中学校区)授業力向上研修会														
内容	<p>小中連携、「射水スタンダード」の日常化等の観点から、中学校区を単位に授業公開と研究協議を行う。指導助言は、市内各校管理職、市教セ等で行う。当日は、中学校区各校午後放課として実施する。</p> <p><実施済></p> <table border="1" data-bbox="338 913 1414 969"> <tr> <td>6月26日(火)</td> <td>小杉中学校区(小杉中、小杉小、太閤山小、下村小)</td> </tr> </table> <p><今後実施(予定)></p> <table border="1" data-bbox="338 1021 1414 1288"> <tr> <td>10月4日(金)</td> <td>小杉南中学校区(小杉南中、中太閤山小、歌の森小、金山小)</td> </tr> <tr> <td>11月11日(月)</td> <td>大門中学校区(大門中、大門小、大島小)</td> </tr> <tr> <td>11月13日(水)</td> <td>新湊中学校区(新湊中、放生津小、新湊小)</td> </tr> <tr> <td>11月22日(金)</td> <td>新湊南部中学校区(新湊南部中、作道小、片口小)</td> </tr> <tr> <td>11月22日(金)</td> <td>射北中学校区(射北中、片口小、堀岡小、東明小)</td> </tr> </table>			6月26日(火)	小杉中学校区(小杉中、小杉小、太閤山小、下村小)	10月4日(金)	小杉南中学校区(小杉南中、中太閤山小、歌の森小、金山小)	11月11日(月)	大門中学校区(大門中、大門小、大島小)	11月13日(水)	新湊中学校区(新湊中、放生津小、新湊小)	11月22日(金)	新湊南部中学校区(新湊南部中、作道小、片口小)	11月22日(金)	射北中学校区(射北中、片口小、堀岡小、東明小)
6月26日(火)	小杉中学校区(小杉中、小杉小、太閤山小、下村小)														
10月4日(金)	小杉南中学校区(小杉南中、中太閤山小、歌の森小、金山小)														
11月11日(月)	大門中学校区(大門中、大門小、大島小)														
11月13日(水)	新湊中学校区(新湊中、放生津小、新湊小)														
11月22日(金)	新湊南部中学校区(新湊南部中、作道小、片口小)														
11月22日(金)	射北中学校区(射北中、片口小、堀岡小、東明小)														

2 その他の研修会

10	理科教育講座(自然観察)入門コース		
日時	7月29日(月) 9:00~16:30	会場	金山小学校、他各観察場所
受講者	6名(うち市内小学校教員4名)		
講師等	富山県総合教育センター科学情報部 研究主事		
内容	<p>自然観察に関する研修を行い、指導力の向上を図ることを目的に、富山県総合教育センターと射水市教育センターとの協業事業(研修)として開催。地層の観察(浄土寺:浄土真宗親鸞会裏)、公園の樹木と土壌生物の観察(中太閤山:薬勝寺池公園)、河原の石、動植物の観察と流速比較(土合:北陸新幹線鉄橋下付近)、海浜植物、砂浜の動物の観察(海老江海浜公園)、校庭の植物の観察(金山小学校)を行った。</p>		

令和元年度カニ学校給食の実施について

1 概 要

新湊漁業協同組合から市内小学校6年生（887名）を対象に、概ね10月中の学校給食にベニズワイガニを一人につき一杯提供していただいている。

2 趣 旨

児童に地元の特産品であるベニズワイガニを味わってもらい、地域の自然や食文化に関する理解を深めてもらうことで、食育活動の推進を図る。

また、特色ある給食として県内外に情報発信することで、射水市の特産品であるベニズワイガニの知名度アップを図るとともに地産地消を推進する。

3 セレモニーの実施（今年度実施校：片口小学校）

(1) 日時及び場所

- ・日時 令和元年10月9日（水）11：50～
- ・場所 片口小学校

(2) 参加予定者

射水市	新湊漁業協同組合	片口小学校
市長 夏野 元志 教育長 長井 忍	代表理事組合長 尾山 春枝 参事 西本 邦郎	校長 杉高 浩 関係教員 若干名 6年生児童 45名

(3) 当日の流れ

- ① 市長あいさつ
- ② 新湊漁業協同組合 代表理事組合長あいさつ
- ③ 児童代表から感謝の言葉
- ④ 「いただきます」の言葉で喫食開始
- ⑤ ベニズワイガニの食べ方や生態系、漁法等の説明（新湊漁業協同組合）

4 令和元年度実施予定日（※悪天候等の事情により変更する場合あり。）

実施日	学校名	実施日	学校名
10月9日（水） ※セレモニー実施日	片口小学校 金山小学校 太閤山小学校	10月23日（水）	大島小学校
10月11日（金）	大門小学校	10月25日（金）	放生津小学校 新湊小学校 堀岡小学校 下村小学校
10月16日（水）	塚原小学校 歌の森小学校	10月29日（火）	東明小学校 中太閤山小学校
10月18日（金）	作道小学校	11月 1日（金）	小杉小学校

令和元年10月の主な行事予定

日	曜	時間	場 所	行 事 予 定	主務・関連課	教育委員出席
1	火		新湊市街地	新湊曳山まつり	生涯学習・スポーツ課	教育長
2	水					
3	木					
4	金	19:30	本庁舎会議室401	令和2年成人式 新成人代表者会議	生涯学習・スポーツ課	
5	土	10:00	本庁舎会議室302	第3回いみず親学びスクール「発達障害の理解と支援」	生涯学習・スポーツ課	
6	日		右記小学校	学習発表会(作道、塚原、小杉小学校)	学校教育課	
		9:30	海王丸パーク及び内川周辺	元気とやまウォークラリーin射水	生涯学習・スポーツ課	
		10:30	大門小学校	第56回ガールスカウト富山県大会	生涯学習・スポーツ課	○
		9:00	新湊博物館	呈茶会	新湊博物館	
		13:30	新湊博物館	講演会	新湊博物館	
7	月					
8	火					
9	水					
10	木					
11	金					
12	土					
13	日					
14	月					
15	火					
16	水	10:00	本庁舎会議室302	放課後子ども教室教育活動推進員等研修会	生涯学習・スポーツ課	
17	木					
18	金	16:15	本庁舎会議室301	令和元年度いみず鳳雛きらめき塾事業報告会	学校教育課	○
19	土		右記中学校	文化活動発表会(新湊南部中学校)	学校教育課	
20	日		右記小学校	学習発表会(放生津、新湊、片口、堀岡、東明、金山、太閤山、中太閤山、大門、下村小学校)	学校教育課	
		9:30	中央図書館	本のリサイクル市	中央図書館	
		9:00	金山コミュニティセンター	第9回金山文化祭	生涯学習・スポーツ課	
21	月					
22	火					
23	水	13:30	本庁舎会議室302	令和元年度富山県市町村教育委員会連合会第2回研修会	学校教育課	○
24	木					
25	金					
26	土		右記中学校	学習発表会(新湊中学校)	学校教育課	
			右記中学校	文化活動発表会(射北、小杉、小杉南、大門中学校)	学校教育課	
27	日	8:30	高岡市～射水市～富山市間	富山マラソン2019	生涯学習・スポーツ課	教育長
		9:30	三ヶコミュニティセンター	第11回三ヶ地域文化祭	生涯学習・スポーツ課	
		9:30	池多コミュニティセンター	第35回池多地区文化祭	生涯学習・スポーツ課	
		10:00	浅井コミュニティセンター	浅井文化祭	生涯学習・スポーツ課	
		10:00	水戸田コミュニティセンター	水戸田地域文化まつり	生涯学習・スポーツ課	
28	月					
29	火					
30	月					
31	木					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
9/13	11/24	新湊博物館	戦国から幕末の射水				
10/25	11/12	中央図書館	「世界の王子・王女様」展				

日	曜	時間	場 所	行 事 予 定	主務・関連課	教育委員出席
24	日					
25	月					
26	火					
27	水					
28	木					
29	金	9:00	新湊博物館	呈茶会	新湊博物館	
30	土					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
9/13	11/24	新湊博物館	戦国から幕末の射水				
10/25	11/12	中央図書館	「世界の王子・王女様」展				
11/29	2/24	新湊博物館	石黒宗麿展(仮称)				